

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成20年6月5日(2008.6.5)

【公表番号】特表2003-534411(P2003-534411A)
 【公表日】平成15年11月18日(2003.11.18)
 【出願番号】特願2001-586506(P2001-586506)
 【国際特許分類】

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

C 0 8 J 3/28 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 5/18 C E R

C 0 8 J 3/28 C E Z

C 0 8 L 101:00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年4月18日(2008.4.18)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】ライトバルブの光調節ユニットとして好適に使用されるフィルムであって、架橋ポリマーマトリックスに分布した液体ライトバルブ懸濁液の小滴を有する該架橋ポリマーマトリックスを含み、前記フィルムが、架橋によって実質的に損傷を受けず、及び前記ポリマーマトリックスが、架橋前に、少なくとも2 Pa・秒のブルックフィールド粘度を有するポリマーを含むことを特徴とするフィルム。

【請求項2】前記ポリマーマトリックスが、少なくとも6 Pa・秒のブルックフィールド粘度を有するポリマーを含む、請求項1に記載のフィルム。

【請求項3】前記ポリマーマトリックスが、約8～15 Pa・秒のブルックフィールド粘度を有するポリマーを含む、請求項2に記載のフィルム。

【請求項4】前記ポリマーマトリックスが、シラノール末端ジフェニルジアルキルシロキサンのコポリマーを有する、請求項1に記載のフィルム。

【請求項5】前記ポリマーが、ビニル含有又はフリーラジカル若しくはカチオンの重合可能な基を有する3-(メタ)アクリルオキシアルキルジアルコキシアルキルシロキサン又はアルキルジアルコキシシロキサンであるモノマーを含む、請求項1に記載のフィルム。

【請求項6】前記ポリマーが、少なくとも一つのコポリシラノールから由来する、請求項1に記載のフィルム。

【請求項7】前記少なくとも一つのコポリシラノールが、ジハロ末端基含有オリゴマーである、請求項6に記載のフィルム。

【請求項8】前記少なくとも一つのコポリシラノールが、好適な屈折率のジフェニルジアルキルシロキサン又はアルキルフェニルシラノール末端ホモポリマーである、請求項6に記載のフィルム。

【請求項9】対向したセル壁を有するライトバルブであって、請求項1～8のいずれか1項に記載のフィルムが該ライトバルブの光調節ユニットとして前記セル壁の間にあることを特徴とするライトバルブ。

【請求項10】ライトバルブの光調節ユニットとして好適に使用されるフィルムであ

って、架橋ポリマーマトリックスに分布した液体ライトバルブ懸濁液の小滴を有するフィルム形態の該架橋ポリマーマトリックスを含み、前記液体ライトバルブ懸濁液が、液体懸濁媒体中に懸濁された粒子を含み、前記フィルムが、請求項1～8のいずれか1項に記載のフィルムであることを特徴とするフィルム。

【請求項11】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、該マトリックスポリマーが、請求項1に記載のポリマーを有する、SPDフィルム。

【請求項12】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、該マトリックスポリマーが、請求項2に記載のポリマーを有する、SPDフィルム。

【請求項13】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、該マトリックスポリマーが、請求項3に記載のポリマーを有する、SPDフィルム。

【請求項14】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、該マトリックスポリマーが、請求項4に記載のポリマーを有する、SPDフィルム。

【請求項15】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、該マトリックスポリマーが、請求項5に記載のポリマーを有する、SPDフィルム。

【請求項16】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、該マトリックスポリマーが、請求項6に記載のポリマーを有する、SPDフィルム。

【請求項17】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、前記マトリックスポリマーが少なくとも一つのコポリシラノールから由来し、前記少なくとも一つのコポリシラノールが、請求項7に記載のオリゴマーである、SPDフィルム。

【請求項18】マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成され、前記マトリックスポリマーが少なくとも一つのコポリシラノールから由来し、前記少なくとも一つのコポリシラノールが、請求項8に記載の好適な屈折率のジフェニルジアルキルシロキサン又はアルキルフェニルシラノール末端ホモポリマーである、SPDフィルム。

【請求項19】請求項1～8のいずれか1項に記載のフィルムが、ライトバルブの光調節ユニットとしてセル壁の間にある、マトリックスポリマー及びコロイド粒子の液体懸濁液を含むエマルジョンを硬化することによって形成されるSPDフィルム。

【請求項20】フィルムが紫外線照射又は電子ビームによって硬化される、請求項12～18のいずれか1項に記載のSPDフィルム。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

本発明において有用なシラノール末端材料のうちの1つが、ジハロ、好ましくはジクロロ末端基含有オリゴマー、例えば、塩素末端ポリジメチルシロキサンであってもよいと考えられる。コポリシラノールの場合、コポリマーは、さらに好適な屈折率のアルキルフェニルホモポリマー（シラノール末端）であり得る。アルキルは、ここで以前に定義されている。

さらに、意外にも、本発明の方法は、比較的高粘性を製造することが可能になることにより、マトリックスポリマーの粘性が十分に高い、好ましくはブルックフィールド粘度(Brookfield-viscosity)で最小2 Pa・秒(2000CPs)、より好ましくは6 Pa・秒(6000CPs)

の粘性及び最も好ましくは $8 \sim 15 \text{ Pa} \cdot \text{秒}$ (8000-15000 CPs) の範囲の粘性である場合、先行技術の別々の乳化剤又は架橋性乳化剤に対するいずれの必要性も排除し得ることが発見された。これは、大きな簡略化及びコスト節減を表す。